

奨励賞

うれしい連鎖

菅谷 泰枝

柳田先生、お元気ですか？お変わりありませんか？

私は、毎日、家事や仕事、育児に忙しくて、一日があつという間です。まるでジェットコースターに乗っているような急加速、急展開の目が回るような一日を過ごしています。

娘の泰充は、五歳になりました。相変わらず、おてんばでお話し上手な活発な子に成長しています。いつも元氣いっぱい、おしゃべりは止まらず、とてもにぎやかです。でも、大好きな寝る前の絵本の時間は、布団の上で静かにピタッと寄り添って、じつと耳を澄まして聞いてくれます。

ところで、私は産前産後休暇・育児休暇を経て、泰充が一歳になった時から職場復帰をしました。それからは、泰充を保育園に預けてフルタイムで働くワーキングマザーになりました。毎日、保育園の行き帰りは一緒に手をつないで通っています。朝、泰充の元気な声で「母ちゃん、行つてらっしゃい！」と送り出されて、お迎えの「母ちゃん、お帰り！」に日々、励まされています。

私自身が本好きなこともあって、泰充がお腹の中にいる時から絵本の読み聞かせをしていました。そのせいなのか、泰充は絵本の読み聞かせが大好きになってくれたようです。寝る前の絵本の時間が習慣になって、毎晩とても楽しみにしてくれています。

そんな毎日ですが、正直なところ、仕事や家事が忙しくて、絵本を読んであげる時間や余裕がない時もあります。泰充がぐずぐずしているので絵本の時間を割愛して

しまいたくなる時もあります。すると、泰充は私の様子や気持ちをさっと察して、ちびっ子コンピューターをフル回転させます。大好きな絵本の時間をなんとしても確保するために、急いでパジャマに着替えて、進んで寝る前のトイレや歯磨きをして大忙しで頑張ります。親子けんかの勃発時は、関係修復のため一生懸命に謝って早く仲良くなろうと抱っこをねだってきます。もちろん、読んでもらう絵本は大急ぎで自分で準備しています。そんな泰充の行動を見ると、思わずウフフツと笑ってしまい、疲れていたり、イライラしてささくれ立った気持ちを忘れさせてくれます。自然と穏やかになって、また笑顔で泰充をぎゅっと抱きしめて、やっぱり絵本を読んであげようかなと思い直してきます。こうして、寝る前の絵本の読み聞かせが日課になってしまいました。

私が忙しい時にはお父さんに読んでもらったり、じい

じがお泊まりで遊びにきた時はじいじに読んでもらう時もあります。その時も自分で絵本を準備して布団の上で待っています。

「大好き母ちゃんを読んできた時は、ピンクの大きなハートがどつきん、どつきん。とどが読んできた時は、真っ赤なハートがときん、ときん。じいじが読んできた時は、黄色のにこちゃんマークがぽによん、ぽによん。嬉しい。大好き。」と絵本を読んでもらった時の気持ちをハートやにこちゃんマークのジェスチャー付きでとっても嬉しそうに話してくれました。それぞれの読み聞かせの違いも楽しんでいるようです。それがまた私たちを喜ばせてくれるので、嬉しい気持ちがどんどん連鎖して、それに応えてまたみんなが絵本を読んでもあげたくなります。

最近では、泰充が絵本を読み聞かせてくれることもあり

ます。ひらがなの読み聞かせができるようになって、絵だけでなく文字からの発見もたくさんあるようで、とても楽しそうです。張り切って真剣に大きな声で読んでくれるので、私たちもうなずきながら真剣に聞いています。自作の創作物語を面白おかしく語ってくれる時もあります。泰充の想像が楽しくて、みんな大笑い、大絶賛すると、大喜びで満面に笑顔を浮かべて得意気です。

これからも、みんなで絵本の読み聞かせを通じて楽しみながら心を触れ合い、絆を深めていきたいと思います。知らず、知らずに、絵本の豊かな恵みを受け取っているようです。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

親が忙しいと、子どもに絵本を読んであげるのがめんどづいになりがちですね。

でも菅谷さんの五歳の娘さんは、母親に読んでもらおうとする作戦が上手なんですね。さつさと寝る前の準備をして、絵本を自分で選んで待っているのですから、読み聞かせをしないわけにはいきませんよね。

五歳の娘さんをそういう気持ちにさせた根っこは、娘さんがお腹の中にいるときから、絵本を読み聞かせをしていたという菅谷さんのひたむきにわが子に絵本を読み聞かせをしてきた日々の成果と言えるでしょう。

娘さんが、母親、父親、祖父のそれぞれの読み聞かせ方の違いを、「ハートがどつきーん、どつきーん」「ハートがときん、ときん」「黄色のにこちゃんマークがばにょん、ばにょん」と表現しているのは、絶妙です。絵本の読み聞かせは、感性と言葉の表現力をみごとに発達させるのですね。

どんなに忙しくても、絵本を読み聞かせるときには、母親の心も穏やかになりますよね。そういうときの母親を、子どもは一番

好きになります。そこから生まれるのは、子どものまろやかな性格です。絵本の読み聞かせには、そういうかけがえのない“副産物”もあるのです。